

多久市・小城市の文化財散歩

国・県指定重要文化財(建築物)、史跡・天然記念物(動物を除く)、重要文化的景観、登録文化財



多久市

重要文化財

(1)川打家住宅



多久市西多久町大字板屋

伊万里と多久を結ぶ旧街道に面した住宅で、屋根の形が「くど」（かまど）に似ていることから、一般にくど造りといわれる民家。川打家住宅は、この形式の民家の中では建築年代が古く、18世紀前半の建築と推定している。建物内部は、土間と板の間及び座敷からなる。

史跡

(4)肥前陶器窯跡



多久市多久町(唐人古場窯跡)

牛津川上流部にあり、多久家史料によると秀吉の朝鮮出兵の折に連れて来られた金ヶ江三兵衛が最初に築いた窯とされる。操業時期は、16世紀から17世紀初頭頃と考えられる。焼成室間の段差がない窯構造や磁器製作の技法を思わせる製品の特徴は朝鮮半島のものに近

登録文化財

(7)多久市西溪公園寒鶯亭



多久市多久町

多久市出身の炭鉱主高取伊好が大正13年に建て、地元に寄贈した公会堂建築物である。棟札から、設計者は杵島炭鉱技師の大坪彌平、棟梁は船津虎五郎であることが判明している。16畳3室の四周に縁を回し、入母屋の大屋根を架け、北面の中央に車寄を設ける。木造和風公会堂建築の好例である。

小城市

重要文化財・史跡

(2)多久聖廟



多久市多久町東の原

江戸時代の学校内に、儒学の先哲たちを祀る施設として建築された。中国風の外観で、桁行、梁間とも3間、入母屋造瓦葺き、内部はタタキの土間で、ここに「元禄13年5月鑄成」銘の孔子像を納めた聖龕がある。明治の修理後、長く銅板葺きであったが、平成2年の修理で、旧来の瓦葺きとなった。

佐賀県史跡

(5)保四郎窯跡



多久市多久町字保四郎

道祖元地区北方に所在し、周辺の唐人古場・高麗谷・大山古窯などの陶器窯を含めて従来「多久古唐津系」と称される。窯本体は現存長約40m。胴木間は奥行3.3mで残りは比較的良い。物原は窯跡に接して南側にあり、日常雑器を中心とした窯で、18世紀から幕末ごろに操

登録文化財

(8)木下家住宅



多久市東多久町別府

木下家は19世紀初め頃から3代にわたって大庄屋を務め、明治元年に酒造業を創業し、昭和48年まで営んだ。主屋は、木造二階建て寄棟造棧瓦葺建物で、明治22年建築。離れは木造平屋建て入母屋造り棧瓦葺きで、大正13年建築。つなぎ屋は、木造平屋建て切妻造り棧瓦葺きで、離れと同時に建築された。同一敷地内には、国重要有形民俗文化財「肥前佐賀の酒造用具」が保管展示されている。

佐賀県重要文化財

(3)若宮八幡宮神殿



多久市多久町字宮城

若宮八幡宮は、多久太郎宗直が建久4年(1193)に創始したと伝える。神殿は桁行3間、梁間3間の三間社流造り。屋根は銅板葺きで、千木、勝男木を置く。棟札写によると、元亀3年(1572)に龍造寺長信が再興して以来、幾度も修理が行われているが、基本に江戸初期のものが残るとされる。

佐賀県天然記念物

(6)相浦の球状閃緑岩



多久市北多久町大字多久原 飯盛山

球状閃緑岩は火成岩中の深成岩の変種で、基質中に白黒の同心球状の縞を持つ球顆が入る。大工田・相浦地区では、球状閃緑岩の転石が散在する。相浦地区では、カイガラ石と呼ばれ、球顆は5～18cmの楕円形。一般に球顆岩石と称され、ヨーロッパではナポレオン

小城市

佐賀県重要文化財

(9)石造肥前鳥居 慶長二年の銘あり



小城市小城町池の上 牛尾神社

牛尾神社は、延暦15年(796)9月桓武天皇の勅宣により創始したと伝えられる平安時代初期の古社である。慶長2年(1597)、寛文元年(1661)の銘のある2基の鳥居があるが、慶長2年銘のものは、この神社の二の鳥居とされている。高さ3.25m、笠木の長さ3.6m。県下の肥前鳥居の中でも造立年代の古いものの一つである。

佐賀県重要文化財

(10)星巖寺楼門



小城市小城市畑田 星巖寺

星巖寺は、貞享元年(1664)小城支藩2代藩主鍋島直能が初代鍋島元茂の菩提を弔うために建立した寺で、代々小城支藩の菩提寺とされた。楼門は竜宮門形式で、中央の通路部分をアーチ形とし、桁行3間、梁間2間の上層部をのせる。屋根は入母屋造りで本瓦葺、棟の両端に鯨を置く。この楼門は、嘉永5年(1852)に、9代藩主鍋島直堯の命により建立されたもの。

佐賀県史跡

(13)寺浦廃寺塔跡ならびに礎石



小城市小城市畑田大字寺浦

文献に見あたらないが、出土遺物から奈良時代の寺院であると確認できた。小城市教育委員会による確認調査で、建て替えがある回廊とその内部南寄りに金堂、西側回廊と重複する位置に塔があり回廊廃絶後に塔が建てられたと思われる。南回廊には中門が確認できた。講堂は確認できていない。小城地域の有力氏族の氏寺の性格をもつものと推定される。

佐賀県史跡

(16)円山古墳



小城市三日月町大字織島字西五本二割

高取山南東丘陵山麓に位置する。墳丘は二段築成で径約46m、高さ6.5mの大型円墳。埴輪と葺石をもつ。内部主体は古式横穴式石室で墳頂部のやや高い位置に構築される。石室には阿蘇熔結凝灰岩板石により三つの屍床が設けられる。石室内から甲冑類などが出土した。5世紀後半の築造と考えられる。

佐賀県重要文化財

(11)星巖寺御霊屋



小城市小城市畑田 星巖寺

正面1間背面2間、側面2間で、屋根は入母屋造り、平入りの本瓦葺きである。正面入口は棧唐戸を用いる。内部には宝篋印塔形五輪塔が納められている。この御霊屋は小城市鍋島家四代藩主元延の墓所で、覆い屋の建築年は没年である正徳4年(1714)から若干遅れる可能性があるが、少なくとも18世紀中頃までは遡るものと思われる。

佐賀県史跡

(14)茶筌塚古墳



小城市小城市

小城市公園内の桜岡と呼ばれる独立丘陵頂部に築かれた前方後円墳。全長46m。葺石や埴輪等は確認できていない。内部主体も不明であるが墳丘くびれ部付近から出土した土師器より4世紀後半に造営されたものと推定される。県内の前方後円墳としては最古級に位置づけられる。

登録文化財

(17)塚塚



小城市三日月町織島字東分割

前方後円墳で、後円部の一部が破壊され石室が一部露出する。全長30m、後円部径20m、高さ3m、前方部幅9m以上。埴輪や葺石などは確認されていない。内部主体は後円部に設けられた横穴式石室で、前方部に向かって開口する。墳丘形から6世紀頃の築造と考えられる。

史跡

(12)土生遺跡

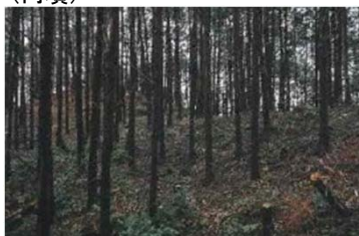


小城市三日月町久米

弥生時代前期に始まり後期まで営まれた大規模な集落跡で、住居跡・貯蔵穴・井戸跡などが確認されている。住居跡には柱根が残っているものもあり、また敷き板を敷いたり横木を渡しているものもある。遺物は大量の土器と共に石器、木製品(鋤・堅杵・杓子・織具・高坏)が出土した。土器の中には、朝鮮の無文土器の影響が認められるものがある。

佐賀県史跡

(15)権現山前方後円墳及び2号墳(円墳)



小城市三日月町織島字権現山

高取山南東の丘陵頂部に並んで築造される。権現山古墳は前方後円墳で、全長約57m。内部主体や副葬品等は不明だが、墳形等から5世紀代の築造と推定される。円墳は、権現山から西に約35m離れて位置し、径14m、高さ2.5m。墳丘頂部には横穴式石室の抜き跡らしき大きなくぼみがある。墳丘上から採集された埴輪片等から、築造時期は6世紀後半と推定される。

登録文化財

(18)村岡総本舗羊羹資料館



小城市小城市

昭和16年に砂糖貯蔵庫として建てられたが、昭和59年の改装によって資料館となった。木造で寄棟の屋根の和風建築であるが、ファサード(正面)は煉瓦とタイルによる洋風の意匠となっており、その特徴的な外観により広く親しまれている。

登録文化財
(19)日本福音ルーテル小城教会



小城市小城町
昭和13年に建てられた切妻屋根の小さな木造教会で、東面にホール及び牧師館が雁行型状に接続し一体的に構成される。切妻造の教会堂は、背面の妻壁に聖壇が円形状に張り出す独特の外観をしている。設計はヴォーリス建築事務所、施工は辻組(現九州建物株式会社)である。

登録文化財
(20)深川家住宅



小城市小城町
旧小城城下と鎮守の祇園神社を結ぶ街道沿いに位置する旧造り酒屋の町屋で、裏の土蔵で酒造りが行われ、主屋の一角を占めていた店頭では、酒の小売りが行われていた。主屋の建築年代は江戸末期、土蔵は明治初期であり、街道に面した造り酒屋の様相を今に伝えている。

登録文化財
(21)小柳酒蔵



小城市小城町
小柳酒造は文化年間頃の創業と伝えられる老舗で、主屋は19世紀初期頃の良質な町屋建築である。麹室や酒母室などの醸造の工程を示す一連の施設を備えており、敷地中央に煉瓦造の煙突を配する様は、今なお近代酒造業の景観をよく保持しており、地域のランドマークとなっている。

登録文化財
(22)天山酒蔵



小城市小城町岩蔵
文久元年頃から製粉製麺業を営み、明治8年に酒造業を創業した。明治蔵は桁行8間、梁間3間で、その北及び東に大正蔵が増築、さらに大正蔵と平行して昭和蔵が建てられた。敷地北側には旧精米所が残っており、祇園川の水を利用して精米を行っていた当時の水路、取水口及び立型水車が残っている。

登録文化財
(23)牛津赤れんが館



小城市牛津町牛津
明治中期に建築されたこの建物は、玉屋デパートの前身、田中丸商店の倉庫としてつくられた。煉瓦と石材による妻面の丸い空気穴など、デザインにも優れた、長崎街道牛津宿の象徴的建物である。

登録文化財
(24)牛津町会館(旧田中丸家住宅)



小城市牛津町牛津
九州の財界人として著名な田中丸善蔵の邸宅として、大正初期に建設された。中央の玄関棟を挟んで南に座敷棟、北に居室棟を配する豪壮な概観に対し、内部は繊細な数奇屋風の意匠にまとめられている。牛津赤れんが館とともに、かつての商都牛津を彷彿とさせる建物である。

多久市・小城市

天然記念物
(25)カササギ生息地



県内8市8町
カササギは佐賀県の県鳥であり、カチガラスの愛称で親しまれている。カラス科に属し、雑食性で、北半球全域に生息するが、日本では佐賀平野を中心に分布する。1月から6月が繁殖期で、4月から5月に巣立ちをする。